

TNC
通信

2020
4月号

【子年の言葉】

鼠穴(そけつ)を治めて里閭(りりよ)を懐(やぶ)る……鼠の穴を見つけ、退治しようとして村の門を壊してしまう事。小さな害をなくそうとしてもっと大きな肝心のものをダメにする譬え。『淮南子』から。

中国への義援金一ご協力、
ありがとうございました！！

宮城県日中友好協会では(公社)日本中国友好協会を通して、「中国・加油！」との思いを込めて、新型コロナウイルスによる肺炎の対応に全国の会員の皆様に義援金募集を訴え、数度にかけて中国大使館に寄付をいたしました。富谷市日中の会員の方々からも募金に対してご協力をいただき、大変にありがとうございました。

今後世界的規模の戦いが続きますが、日中協力して困難を乗り越えてまいりましょう。

「TNC通信」200号
記念の原稿を募集！！

本刊紙「TNC通信」もおかげさまで、6月号で200号を数えます。記念として皆様から大きなテーマを日中友好とし、自由な「エッセイ・感想・意見」「写真・イラスト」「詩歌」等を募集し、数回に分けて掲載してまいります。ご協力よろしくお願いたします。送り先は水戸迄。

メール mito_yuji@yahoo.co.jp

Fax 358-5070

さてTVニュースで中国の華春瑩報道官から

日本の支援に謝意が寄せられ、また中国大使館の孔鉉佑大使も「助け合う隣人の道」と題して2月13日付け『人民日報』にエッセイを投稿しました。孔大使は、日本からの寄贈物資には「山川異域、風月同天」が書かれていた等のエピソードも紹介しながら、「新型コロナウイルス肺炎との戦いはまだ続いています。手を携えて感染と戦う過程の中で、双方のポジティブな相互作用が、中日関係の一層の改善と発展を後押しする新たな原動力となり、両国人民の友好的感情を増進する新たな絆となる事を心から望んでいる」と謝意を表しました。なお県協会では吉林省対外友好協会へお見舞いのメールを送りました。※写真は「人民中国2020カレンダー」の4月から。短歌・劉徳有、絵・顧娟敏ご夫妻



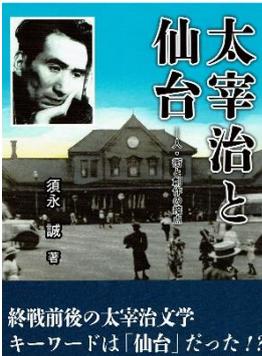
shu ben

『太宰治と仙台』— (人・街と創作の接点— (須永誠著、河北新報出版センター、1540円)

今回は少し変化球なのですが、本書の中の「第1章『惜別』と仙台」です。著者は河北新報社学芸部を経て、現在は出版センター出版部長であり、太宰ファンだ。太宰の『惜別』は魯迅の『藤野先生』をリメイクしたといえますが「日支全面和平に効力あらしめん」という、時代背景下での作品ではあったとはいえ、改めて読み比べるいい機会となったので紹介しました。

太宰は河北新報社を訪問し、魯迅留学時代の新聞や関係先を熱心に取材しており、それは「惜別メモ」として残っている。太宰は周樹人の同級生の老医師の手記の形をとり、物語を大いに膨らませている。本書にもあるが「『惜別』は発表後間もなく、魯迅研究者らの厳しい批判にさらされる。中国文学者で文芸評論家の竹内好は、急先鋒だった」と。論点は①幻灯機事件②添削ノート事件、のとらえ方であるが、著者は“惜別”の場面が『藤野先生』とほとんど変わらないことにも注目し、医学から文学の道へと転換する清国学生・周樹人を太宰らしい感性で描いた作品であると指摘。

資料編として太宰の「惜別メモ」も収められており、新たな発見があり、読後印象も変わってくるかも知れない。(M)



◇習主席の訪日は延期に◇

当初4月に予定されておりました中国・習近平国家主席の国賓来日は、新型コロナウイルスの影響を受け、当面は秋以降で再調整されることになりました。

私たちは習主席来日の際の“お土産”として“仙台市八木山動物公園へのパンダ決定！！”を期待しておりましたが、大変残念です。希望は今秋に！と地道な誘致運動を続けてまいりましょう。

(写真は成都市内発のバス。現在、仙台八木山を目指して走行中)



“パンダ”は果たして？